

小川町の歴史・文化は、私たちのアモーレです。



とくち まさる
戸口 勝が問う

歴史を背景とする戦略を

Q 町史編さん事業により、「小川町の歴史」を刊行したが、先人の偉業や業績を記した「人物誌」が発刊されずに終了となった。今後の計画は。

A 生涯学習課長 当面考えていませんが、意義やあり方について、町民各層の意見をいただきたいと考えます。

Q 交通の要衝として、あふれんばかりの人々にぎわった小川町。そんな我が町に名物や美味いものがないはずがない。食文化・郷土食の研究や発掘を。

A 生涯学習課長 郷土の活性化という点から必要であると考えます。

Q 歴史の背景を郷土の誇りの醸成に、そして教育・経済・観光・まちづくりの戦略の柱にしては。

A 政策推進課長 地方創生につながる重要な要素であり、参考となる助言と受けとめています。

外国人旅行者の誘致政策

Q 町の取り組みと、国・県に対する働きかけは。

A にぎわい創出課長 昨年、台湾の台南市へ細川紙の普及宣伝活動に行き、今後の物産交流を研究しています。また、国や県が進める協議会に参加し、機会を逃さないよう取り組みます。



町内外より高い評価を受ける「小川町の歴史」。

混雑を逆手に取り、当町への集客はシャトルバスか。



いぐちりょういち
井口 亮一が問う

さらなる地域経済の活性化を

Q 町長は3月議会での所信表明に当たり、「国の施策に注視し当面する諸情勢を踏まえて、経営資源や地域資源を最大限に有効活用しながら「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、基本目標とした「四つの柱」を基軸にまちづくりを展開していく」と話された。

そこで地域経済の活性化につながる中長期的な課題について、深谷市が進めている「花園インターチェンジ拠点整備」は、当町にも少なからず影響が及ぶと考えられるが、研究を進めているのか。

A にぎわい創出課長 当町としても、隣接する自治体として何らかの取り組みができないか、研究を始めるべきと考えています。具体的な集客や問題点の研究は今後の課題ですが、少なくとも雇用の拡大や観光への影響はいい意味で期待できるものと思われれます。

また、ほかのアウトレットモールの例にも見られるように、高速道路を利用する集客が多いため、花園インターチェンジ一つ手前の嵐山小川インターチェンジの混雑も予測されます。当町駅前を起点としたシャトルバス等の取り組みも研究する余地はあるものと考えており、今後も研究を進めていきます。



にぎわい創出にシャトルバスの活用は。

「もう一人産みたい」と思えるまちづくりでしょう。



たかはし
高橋 さゆりが問う

町独自の子育て支援を

Q 国では不妊治療の助成金が、初回15万円から30万円に拡充された。また、新たに男性不妊治療も15万円が助成される。当町独自の支援は。

A 健康福祉課長 この制度により、初回治療費約100%がカバーできることで、町単独の補助の予定はありません。男性不妊治療については、治療内容により10万円から40万円程度かかると言われており、今後研究・検討していきます。

Q 妊婦健診で多胎妊婦（双子や三つ子など）の健診助成の拡充は。

A 健康福祉課長 多胎妊婦の場合でも、通常の14回の助成券で対応できると推測されており、拡充は考えていません。

Q 生まれて間もない赤ちゃんの「新生児聴覚検査」³ に対しての助成は。

A 健康福祉課長 現在、公的補助を行なっている自治体は非常に限定的です。埼玉県では公費でこの検査を実施している自治体はなく、すべて自費扱いとなっています。助成については、今後国や県、近隣市町村等の動向を注視していきたいと考えています。

その他の質問

・学校教育（子ども議会の成果とスマートフォン）の取り組み
・住民サービスの向上は

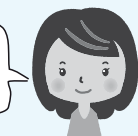


生まれてほやほやの新生児。

解説 新生児聴覚検査³

正式には「新生児聴覚スクリーニング」と呼ばれ、耳が正常に聞こえているかを調べるための検査。難聴の早期発見に有効で、新生児の段階で受けることが推奨されている。

七夕の花火がすごい迫力で見える中央陸橋。



(K・Kさん・55歳)

野菜が新鮮でおいしい。



(H・Tさん・65歳)

和紙マラソンで受ける沿道からの大声援。



(N・Tさん・67歳)

子どもと遊べる栃本親水公園。



(Y・Tさん・30歳代)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」